

平野・大県古墳群分布調査概報

1993年12月

柏原市教育委員会

はしがき

柏原市の東山地区は、大阪府と奈良県との境に聳える生駒山地の南端部分の丘陵上にあり、直ぐ南側に奈良平野の水を集めて河内平野に流れ出ている大和川を俯瞰する位置にある。ここに築造された古墳時代の墳墓の多くは、大和川流域の集落遺跡の支配者層が埋葬されていると考えられている。

今回、この東山地区内における大阪府の新規青少年施設の予定地の一つの候補地として計画され、平野・大県古墳群の範囲内に入るので、この地区に古墳を始めとして新規の文化財が存在するか、また、あれば現在どのような状態で遺存しているのかを分布調査したものである。

既に精密な分布調査が行なわれて多数の古墳が存在していることが確認されているが、古墳が存在していない空白地が割合広がっており、実際に古墳が存在しないのかどうか先の趣旨に沿って古墳の存在確認を主目的として実施した。現地の状況は、大部分が荒廃地となってしまっており、踏査が困難な場所は事前に下草の除去を行った。調査結果は、本書に報告するとおり新規発見の古墳が多数検出された。遺存状態が良好でこの平野・大県古墳群は、市域の生駒西麓の平野に蟠踞していた豪族の墓域と考えられており、古墳群の規模や性格を明らかにする為の調査とその保存対策が待たれる。

調査に対して、ご理解とご協力をいただいた調査関係者並びに地元の方々には深く感謝すると共に、これを機会により一層の文化財保護へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年12月

柏原市教育委員会

教育長 堀刀和秀

例　　言

1. 本書は、柏原市教育委員会が平成4年度に実施した大阪府の新規青少年施設建設予定地に伴う平野・大槻古墳群分布調査の概要報告書である。
2. 分布調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係 北野 重を担当者として平成4年10月6日から平成5年1月30日まで実施した。
3. 分布調査と本書作成にあたって、土地の立入等にご協力を頂いた土地所有者、地元の人々及び各地区区長と代表者に厚く御礼申し上げます。また、大阪府教育委員会 玉井 功、渡辺昌宏、山本 彰、終末期古墳研究会 奥田 尚、上田 醉、梅本康広、柏原市企画調整室石橋保昭、中川喜美治、平井廉啓各氏には一方ならぬ協力を得た。

4. 調査協力は、次の方々です。

| | | | |
|-------|------|-------|------------|
| 藤田昌宏 | 空山 茂 | 山田顯章 | 安村俊史 |
| 石田成年 | 寺川 欽 | 生駒美洋子 | 阪口文子 |
| 津田美智子 | 山口 剛 | 西島信彦 | 松尾洋平 |
| 奥野 清 | 谷口鉄治 | 分才隆司 | 尾野知永子 |
| 酒井英利香 | 乃一敏恵 | 有江マスミ | 池田緑地（株）西垣氏 |

5. 本書の編集、執筆は、北野が行った。

目 次

| | |
|-------------------|---|
| 第1章 調査に至る経過..... | 1 |
| 第2章 調査の方法と目的..... | 2 |
| 第1節 調査の方法..... | 2 |
| 第2節 調査の目的..... | 3 |
| 第3章 調査結果..... | 4 |
| 第4章 まとめ..... | 7 |

挿 図 目 次

図-1 分布調査区

図-2 調査区の地籍図

付表-1 平野・大槻古墳群一覧表

図 版 目 次

| | |
|-------------|------------------------|
| 図版1 分布調査区割図 | 図版9 30区分布図 |
| 図版2 3区分布図 | 図版10 42区分布図 |
| 図版3 14区分布図 | 図版11 43区分布図 |
| 図版4 15区分布図 | 図版12 44区分布図 |
| 図版5 16区分布図 | 図版13 55区分布図 |
| 図版6 17区分布図 | 図版14 56区分布図 |
| 図版7 28区分布図 | 図版15 第31支群8号墳 横口式石槨実測図 |
| 図版8 29区分布図 | 図版16 東山地区の古墳群の尾根と支群 |

第1章 調査に至る経過

当該地は、平野・大県古墳群（別称平尾山古墳群平野・大県支群）として名称された地域内に入り、周辺地域には多くの古墳があるが、この範囲には古墳の確認されていない空白地として残されていた。同古墳群には古墳の密疊の極端な場所があり、そのまま古墳の分布を示すものかどうか問題であった。平成2年度に行なった開発地区（申請面積34,420m²）では、4基の古墳が確認されていたが調査によって新たに5基の古墳を発見した。さらに平成3年度の分布調査によって古墳の空白地となっていた地区（50ha）で15基の古墳を新たに発見した。このように分布調査が全域を踏査していない場所もあって現在古墳の空白地であっても古墳が築造されていない地域と断定は出来ないのである。将来的に古墳が存在する可能性が十分考えられる現状である。

柏原市域の東山において、数箇所の地域が大阪府が推進している新規の青少年施設の予定地としてあげられ、古墳の分布が極めて少ない地域であるという認識から幾つかの候補地の中で有力視された。同古墳群の中に中小規模の開発及びその計画が漸次増加しつつあり、市教育委員会としても文化財の保存と今後の文化財行政の方針等に係わり、早急に分布調査を実施して古墳等の存在の有無を確認する必要があった。平成4年10月、市の企画調整部から柏原市教育委員会に文化財の分布調査の依頼があり、数回の協議を実施した後、当地区的代表者や土地所有者らの合意を得て実施することになった。当該地は、面積が約20haあり、果樹園や植林地として利用されている地区が一部存在しているが、地区の大半は、葡萄栽培畑が自然放置された荒廃地と雜木林或いは谷部の休耕田となっている。現状では古墳の確認どころか足を踏み込むことさえ困難な場所が多く存在した。時間と費用の問題があり、下草の蔓延った地点の中から古墳の存在する可能性の高い場所に限定して下草の伐採を行なざるを得なかった。よって、概ね分布調査対象範囲の大半は走破したがこのような状況から精度的にも危惧される場所、あるいは伐採の行っていない幾つかの地点は未調査区域といわざるを得ない。

分布調査は、平成4年10月6日から実施し、平成5年1月30日まで行った。新規に発見した古墳については、1/2500地形図に記入して任意に支群と古墳番号を仮称した。実施方法、目的と結果は、次章のとおりである。

第2章 調査の方法と目的

第1節 調査の方法

柏原市東山の丘陵上に広がる平野・大県古墳群の遺跡分布調査を実施した。同古墳群は、33支群154基の古墳を登録しているが、これまで当該地内の中で確認されている古墳は、第33支群1号墳1基だけである。

同古墳群の中の古墳の分布の在り方を検討すれば次のような特徴がある。

1. 単独する古墳が少なく集中して存在している。
2. 尾根の稜線上に並列している。
3. 南側緩斜面に多い。
4. 古墳の石の採集地が近くにある。

これらの顕著な要素を念頭に入れ、尾根毎に幾つかの地区を分け、それぞれの地区に古墳の存在の状況を踏査した。当該地には枝尾根が3つあり、さらに小枝尾根が幾つかに分けられる。尾根単位を基本として古墳の密集していた一群を支群として名称した。発見した古墳は、この支群毎に番号を付けた。古墳であるという明確な事柄があればよいがそうでない場合も多かったので、古墳かどうかの確認のため下草の除去と簡単な測量を行い、先に上げた要素を考慮して可能性の強いものだけを古墳とした。

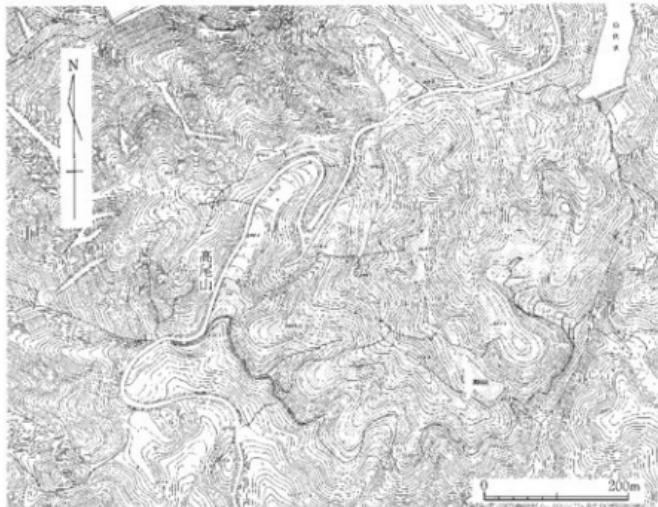


図-1 分布調査区

発見した古墳は、古墳の番号、支群名、古墳の種類、墳形、墳丘直径、墳丘高、内部構造、石室形態、開口方向、石室規模等の簡単な計測を実施し、写真撮影も行った。しかし、古墳数の多さや広範囲に及ぶため位置関係の正確な測量と石室の実測等が時間的制約から行わなかつた。よって、図示した古墳の位置は2,500分の1の地図に記した横ねのプロットである。

第2節 調査の目的

この調査の契機となった目的は、新規の青少年施設の予定地内における古墳について、その現状を把握し、今後この事業が決定された場合の文化財保護行政の基礎資料作成である。

調査の対象とした文化財項目は、

- 1 当古墳群の古墳の存在確認。古墳の計測と写真撮影。
- 2 遺物散布地における遺構及び遺物の確認。写真撮影。
- 3 民俗関連遺物の確認調査。写真撮影。
- 4 その他参考となる事項

を中心とした。

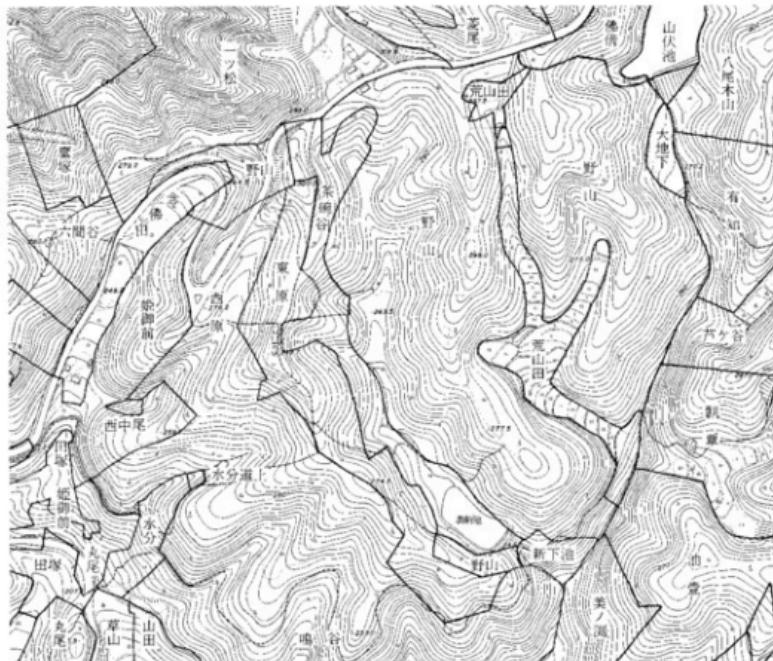


図-2 調査区の土地籍図

第3章 調査成果

今回の分布調査によって、新規の古墳を多数発見した。当地域は、これまでほとんど調査が行われていなかったことを証明する結果となった。

当該地内の既知の支群と古墳数は、平野・大県古墳群第14支群1～3号と第33支群1号の計2支群と4基である。新発見の支群と古墳数は、計11支群と105基があった。詳細は、下記のとおりである。

| 支群番号 | 既知の支群の古墳番号 | 新発見の支群の古墳番号 |
|-------|------------|-------------|
| 第14支群 | (1～3号) | 4、5号 |
| 第33支群 | 1号 | 2～4号 |
| 第34支群 | — | 1～46号 |
| 第35支群 | — | 1～15号 |
| 第36支群 | — | 1～15号 |
| 第37支群 | — | 1～9号 |
| 第38支群 | — | 1号 |
| 第39支群 | — | 1～4号 |
| 第40支群 | — | 1～4号 |
| 第41支群 | — | 1号 |
| 第42支群 | — | 1～4号 |

但し、()内の古墳は調査区外の古墳数を示す。また、各古墳の位置については、測量するまで至らなかった。

調査区の中にはほぼ南北方向に伸びた枝尾根が3つあり、東側枝尾根、中央枝尾根、西側枝尾根である。東側枝尾根には第34支群と第35支群があり、中央枝尾根は、第36支群、第37支群、第41支群、西側枝尾根は、第14支群、第33支群、第38支群、第39支群、第40支群、第42支群がある。

各枝尾根の古墳分布状況と各支群について若干の説明を加えたい。

東側枝尾根は、最高所が北側にあり、南側方向に徐々に低く伸びて途中で二股に分かれる。尾根の北側はやや幅広く先端に近い程狭く痩せ尾根となる。古墳は、尾根の稜線上と南及び南東側斜面等から尾根端部の急峻な場所まで連続として続き、第34支群と第35支群の2支群61基を新規発見した。大部分の古墳が後世の開墾等の削平を受けず旧地形のまま良好に遺存している。尾根筋と谷筋に数箇所の採石の可能地点がある。

中央枝尾根は、最高所が北側にあり、南側へ徐々に低く一本の尾根が緩く逆S字状に屈曲して伸びている。古墳は、枝尾根から南東又は南側に短く伸びた小枝尾根に第36支群と第37支群の2支群24基を点在して発見した。東側枝尾根より疎らの分布である。西側の小枝尾根は、後世の耕作によって削平されたのか当初から築造されなかったのか今後試掘調査が必要である。尾根筋上と谷筋に数箇所の採石可能地が認められた。

西側枝尾根は、北側に最高所があり、くの字形に屈曲した枝尾根から南東又は南西方向に伸びた長短の小枝尾根が數本伸びている。古墳は、枝尾根と小枝尾根の稜線上と南側斜面に第14支群、第33支群、第38支群、第39支群、第40支群、第41支群の第42支群の7支群19基が点在している。中央枝尾根よりさらに疎らである。全体に耕作の行われた痕跡が顕著に認められる。採石地と考えられる地点が数箇所尾根上や谷筋部に認められた。

各支群の古墳の位置や遺存状況の概略は、次のとおりである。

第14支群は、西側の枝尾根から南西方向に伸びた幅のあるやや長い小枝尾根を占める。現状は、全体に果樹園栽培が行われていた場所で一部植林地がある。古墳の存在しそうな場所の尾根の稜線上の下草を伐採して分布調査した。既存の古墳は、尾根下方の調査区外に3基の横穴式石室を主体とする古墳を確認している。新規の古墳は、尾根上の稜線に横穴式石室墳2基を発見した。小枝尾根の南側にさらに短い小枝尾根があるが、耕作のため大きく後世の土地改変をしている可能性が有り、下草が相当激しく今回は見合せた。山頂部は、規模の大きな施設が建ててあり、古墳は、あっても削平されているだろう。

第33支群は、西側枝尾根の中程から南西方向に伸びる小枝尾根上の支群である。現状は、雜木林が大半を占める。1991年度の分布調査で横穴式石室墳1基が発見されている。今回の分布調査でこの古墳付近に2基の横穴式石室墳と枝尾根の山頂部に1基の横穴式石室墳を発見した。全体に後世の土地改変がなされて遺存状況はやや悪い。

第34支群は、東側の枝尾根全体である。現状は、雜木林で下草がよく生い茂り古墳の確認のため伐採を実施した。46基の古墳が発見され、石室の石を抜き取った痕跡の古墳も存在したが良好な保存状況で完存している古墳も多くある。古墳が位置する場所は、丘陵尾根の稜線上と南側斜面、その稜線の東側へ伸びた短い小枝尾根上で谷筋に近い山腹部にもある。密集して連なり隣接した古墳が多く墳丘の一部が重複している古墳もある。古墳の規模の大小や石室形態の片袖、両袖、無袖、小石室、横口式石櫛等多彩な形態の古墳があり、大半が円墳であるが方墳と考えられる古墳が計5基ある。果樹園等耕作があまり行われなかつたのでよく遺存したのであろうか。尾根の幅が広い部分は、2基並列し、狭い部分は精一杯まで尾根を使用して古墳を築造している。

第35支群は、東側枝尾根の中程で南西側から南方向に伸びた短い小枝尾根上にある。現状は、雜木林である。15基の古墳を発見した。大部分は、尾根の稜線上に良好で完存又は石室がほぼ

遺存している。稜線上に平行して並ぶ2基の古墳が5組あった。木棺直葬墳とみられる1基の他は横穴式石室墳である。第34支群にあったような墳丘の腰高い古墳は少なく相対的に低い古墳が多いように見られた。土地の改変が行われなかつたことを示している。

第36支群は、中央枝尾根の北半部を占める。現状は、東側は雑木林で西側の斜面が主に畠地として使用されていた場所で下草の伐採を実施した。西側向きの小枝尾根には古墳の痕跡はなく、稜線の東側の山腹から谷筋にかけて南又は東向きの緩斜面に15基の古墳を構築している。墳丘や石室が少し崩壊しているが全体を復元可能な状態に遺存している。ほとんどが横穴式石室墳である。

第37支群は、第36支群と同じ中央枝尾根の南半を占める。現状は、東側が雑木林で尾根筋から西側斜面にかけて耕作地が放置されており伐採を実施した。尾根の先端部分から東側や南側の斜面地に9基の古墳を発見したが西側斜面からは見つけることが出来なかった。尾根筋上の古墳の墳丘や石室が壊れているのは、後世の果樹園栽培に破壊されたものである。斜面地にある古墳は、概して遺存が良好ですべて横穴式石室墳である。

第38支群は、西側枝尾根から南西方向へ伸びた小枝尾根である。現状は、部分的に果樹園の跡地があるが大半は雑木林である。尾根の中央部に1基の古墳を発見した。立地が良好な場所にあり、墳丘が残っているが石室は確認していない。古墳の築造に適した場所はあるがその痕跡はなく存在しない可能性が高い。

第39支群は、西側枝尾根の南側から南南西に伸びた小枝尾根である。現状は、竹林と雑木林である。枝尾根の山頂部に1基と小枝尾根の稜線上に3基を確認した。2基は、調査区外の稜線上かも知れない。すべて横穴式石室で良好な遺存である。

第40支群は、西側主尾根の最南端から南方向に伸びた小枝尾根である。現状は、竹林と雑木林である。稜線上に3基と山腹に1基の古墳を発見した。内1基は調査区外かも知れない。横穴式石室で保存状況は良好である。

第41支群は、西側枝尾根と中央枝尾根の間に南向きに伸びた小枝尾根である。現状は、竹林である。尾根筋に1基の古墳を発見した。小形石室の墳丘が削られているが石室は良好に遺存している。

第42支群は、西側枝尾根の北側にあり、南向きの緩斜面に位置している。現状は、竹林と雑木林である。山腹の南斜面に4基の古墳を発見した。墳丘が削られているが周溝がよく遺存している。1基が横穴式石室と確認出来るが他の古墳の中に木棺直葬の古墳が存在する可能性がある。

第4章 まとめ

分布調査結果について前章に述べた。平野・大県古墳群の地形的な立地条件を若干説明して今回実施して発見した古墳の現状と分布調査地区の今後の対応を若干の検討してみたい。

生駒山地南側の丘陵は、標高が40～300mの高所にあり、大きな谷を隔てて数条の大きな幹尾根を持った山塊が幾つかの単位に分類出来る。この山塊を古墳時代後期を中心とした古墳群が何らかの統制によって形成されている地域として捉え機械的、物理的に分類したのが平野・大県古墳群を始めとして、太平寺古墳群、安堂古墳群、高井田横穴群、雁多尾畠古墳群、平尾山古墳群、本堂古墳群、青谷古墳群がある。

立地的にみて西麓部の集落遺跡と強い繋がりがある古墳群として捉え、当古墳群と同様に西麓部の集落遺跡に隣接した古墳群として、太平寺古墳群、安堂古墳群、高井田横穴群がこの東側に西麓部の集落遺跡と平行して南北方向に続いている。これらの古墳群よりさらに山地の奥側に位置している雁多尾畠古墳群、平尾山古墳群等は、大阪府下の古墳群の中でも大規模で古墳時代後期の古墳を营造した社会組織や古墳の在り方を知るためには重要な鍵を握っていると云われている。各古墳群全体でも調査した古墳の数は少なく、今後の調査に委ねられている。

当古墳群ではこれまで調査の実施した古墳が10数基を数えるだけでまだ徒に付いたばかりである。既知の古墳は、古墳群の位置、水系、標高の点から分類すると4つのグループに分けられる。第1のグループは、山ノ井川以南で谷川浜の上流である総池を挟んで両側の丘陵上にあり、古墳群北東部の一群で5支群19基の古墳がある。標高は、270mから320mまでである。第2は、谷山浜より北側部にあたる古墳群北西斜面の丘陵上にある一群で10支群35基の古墳がある。標高は、集落遺跡と接する40mから250mまでである。第3は、宮山浜から谷山浜の間の高尾山から以西の古墳群中央部斜面の丘陵上にある一群で、最も古墳が集中して築造されており、13支群88基がある。標高は、集落遺跡と接する40mあたりから260mまでである。第4は、岩崎谷から宮山浜までの丘陵上で古墳群の南側稜線上の一群で、3支群15基の古墳がある。標高は、170mから220mまでである。今回発見した古墳の一群は、新規の第5群グループに比定出来る。第1グループと同様に標高が高く奥まった地域にあり、その他のグループとは相違する。雁多尾畠古墳群と平野・大県古墳群とを区画させている深く大きな谷部である谷川水系に近く、どちらかと云えばこの水系に属する丘陵部にあたり11支群108基がある。標高は、210mから310mまでである。

古墳が立地する丘陵を尾根の規模によって分類すると、大きく3分類出来る。第1の尾根は、幹尾根である。現在の関電道路添いの古墳群の中央部を占め北北東から南南西方向に伸びる最も大きな尾根である。第1グループの最高所から高尾山に続き、第3グループと第5グループ

の間を通り第4グループの中央部を占める。第2は、枝尾根である。幹尾根から東西南北方向に伸びた幾つかの小尾根を持つ中規模的尾根である。第3は、小枝尾根である。支群を構成する1つの尾根で枝尾根からさらに小さく分岐した小枝尾根である。これらの3つの大中小尾根の山頂、山稜、山腹に古墳が築造されている。今回の分布調査範囲内では同古墳群の中心を占める幹尾根から派生する東側枝尾根、中央枝尾根、西側枝尾根の3つの枝尾根で構成し、谷川より西側に位置している。発見したグループは、幹尾根の南東方向に3つの枝尾根があり、さらに枝尾根から数条の小枝尾根が伸びている。

既往の調査によって32支群162基の古墳が確認されている。今回の分布調査のよって新たに10支群105基の古墳を新発見した。調査区の全体を踏査し実際に古墳の可能性が強いと感じられる場所も幾つか見られ、下草の激しく蔓延った場所が多くあること時間的制約もあり、見逃した古墳があるだろう。これだけの古墳が発見されたことは、古墳群内には空白地が各所に存在して、新たな古墳の発見がないと断言出来ない。しかし、全体に古墳の密度が今回確認した古墳のありようから大きく変化することはないと考えられる。

東側枝尾根は最も面積が小さいにもかかわらず大多数の古墳が確認され、中央枝尾根と西側枝尾根は少なかった。前者は、34、35、36、37支群でそれぞれ46、15、15、9基の合計85基の古墳と全体の8割強を占め、後者は、第14、33、38、39、40、41、42支群に2、3、4、4、1、4号墳と合計18基で全体の2割弱である。西側になる程開墾地がおおいのは事実であるが古墳の分布状況は、大きく変化することはないと想定される。場所による古墳の密度が異なるのは、古墳の時期や規模、系譜等があって支群が構成され、埋葬された集団の時期的な盛衰、地位や財力の有無によるのであろう。東側枝尾根と中央枝尾根に確認された古墳は、高井田に流れ込む谷川の上流になりこの谷を隔てて雁多尾畠古墳群と接している。丘陵や尾根による分類では平野・大県古墳群に属するけれど、水系による分類では、生駒西麓部の集落遺跡に隣接した平野・大県古墳群と若干異なる系譜の可能性がある。このことから、新規発見古墳の多くの古墳は、平野・大県古墳群内ではあるが、雁多尾畠古墳群の系譜に近い集団の墳墓と云えるかも知れない。

今回発見された古墳は、東側の枝尾根を始めとして保存状況が良好なもので周溝、墳丘、石室と三拍子揃っており、群構成のわかる支群が人為的な後世の開墾等も少なく古墳時代の古環境をそのまま遺されたように見受けられる。西側に在る古墳についても墳丘が削られている古墳も見受けられるが石室が良く遺されたものがある。全体的に東側は、開墾が少なく、西側は、開墾による破壊が進んでいるように考えられる。

平野・大県古墳群は、生駒西麓部に在る平野・大県・大県南・太平寺・安堂遺跡の自然村落を背景として築造された古墳群として位置付けられているが、東山を地形的区分によって区画されているため本来の群構成を如実に示しているとは云えない。今後の調査によって古墳の分

布状況や石室形態、出土遺物等の総合的な方面から判断されるべきであろう。それぞれの古墳群が有する古墳の基數や立地、形態に相異があり、極めて規模が大きいことから広範囲の地域の集落や有力な豪族の家父長が埋葬されたものと考えられる。

当地区の古墳群について1970年代から1980年前半にかけてその性格や被葬者層の定義付けがなされているが、その後調査の進展と調査成果の比較検討からそれらの論考に大きな変更を行う結果は認められない。しかし、生駒西麓部の集落遺跡の調査が比較的進展して環境復元が想定されるようになり、特に大県・大県南遺跡は、古墳時代中期から奈良時代にかけての大規模な鍛冶工房が発見され、どのような鉄製品を製作したか不明であるが、鍛冶炉、その覆屋の遺構と鉄滓、フイゴ羽口、砥石、炭等が多量に出土している。これらの鍛冶生産に従事した工人を有力豪族か官営的な指導体制によって管理運営された特殊な性格を擁する集落遺跡である。この集落遺跡群の後背地にあたる平野・大県古墳群は、これらの鉄器生産に従事した工人を統制した指導者又は関連を持つ有力者が埋葬された古墳を含んでいる。雁多尾畠古墳群では鍛冶工具の1つとして鉄鍔の出土があり、その関係も今後追求していかなければならない課題である。

柏原市東山地区における調査

- 1970 大阪商業大学『柏原市太平寺古墳群・生津・横尾古墳群実測調査報告』
1971 近畿大学付属高等学校地盤研究会『雁多尾畠古墳群踏査の記録』
1972 人阪府教育委員会『柏原市安堂山古墳の調査結果』『大阪府教育委員会月報』24~11
1973 大阪文化財センター『柏原市本堂所在龜の頬、本堂地区内埋蔵文化財分布調査報告書』
1973 大阪文化財センター『龜の頬地すべり対策工事に伴う柏原市雁多尾畠地区埋蔵文化財分布試掘調査報告書』
1973 大阪文化財センター『大阪府柏原市高井田所在村本建設株式会社開発計画地内埋蔵文化財分布調査報告書』
1974 大阪文化財センター『大阪府柏原市高井田所在遺跡・試掘調査報告書』
1975 大阪府教育委員会『平尾山古墳群分布調査概要』
1979 河内考古学刊行会『河内平太寺古墳群』
1980 人阪府教育委員会『太平寺古墳群』大阪府文化財調査報告書第33編
1980 大阪府教育委員会・柏原市教育委員会『柏原市東山地区における遺跡分布調査報告書』
1980 柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報』
1981 柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報』
1983 柏原市教育委員会『太平寺古墳群』一安堂配水池に伴う発掘調査－
1984 柏原市教育委員会『平尾山古墳群』1983~VI
1984 柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報』1983~II
1985 柏原市教育委員会『鳥坂寺』一寺域の調査－1985~V
1986 柏原市教育委員会『高井田横穴群I』1985~VI
1986 柏原市教育委員会『高井田遺跡I』1985~VII
1987 柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報』1986~I
1987 柏原市教育委員会『高井田横穴群II』1986~VII
1988 柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報』1987~I
1989 柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報』1988~I
1989 柏原市教育委員会『平尾山古墳群（雁多尾畠49支群）』1988~VII
1989 柏原市教育委員会『高井田横穴群III』1990~II
1990 柏原市教育委員会『平尾山古墳群』柏原市所在遺跡発掘調査報告書』1989~III
1990 柏原市教育委員会『平尾山古墳群雁多尾畠第2支群』1989~VII
1992 柏原市教育委員会『高井田山古墳』1991~II
1992 柏原市教育委員会『平尾山古墳群平野・大県支群』1991~III
1992 柏原市教育委員会『柏原市東山地区分布調査概報』1991~V
1992 柏原市教育委員会『高井田横穴群』1992~II
1993 柏原市教育委員会『柏原市遺跡群発掘調査概報』1992~IV

| 支群番号 | V. 地 | 墳形 | 墳丘直径 | 墳丘高 | 内部構造 | 石室形態 | 開口方向 | 玄室 | | | 横道 | | | 備考 | | | |
|------|------|----|------|-----|------|------|------|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | 長さ | 幅 | 高さ | 長さ | 幅 | 高さ | 高さ | | | |
| 1-1 | 山腹 | | | | | | | 300 | 195 | 147 | 460 | 140 | 108 | | | | |
| | 2 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | | |
| | 3 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | | |
| | 4 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | | |
| | 5 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | | |
| | 6 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | | |
| | 7 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | | |
| 2-1 | 山腹 | | | | | | | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | S-80° - E | 355 | 177 | 190 | 144 | 114 | |
| | 2 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | |
| 3-1 | 山腹 | | | | | | | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | S-24° - E | 368 | 195 | 186 | 276 | 180 | 125 |
| | 1 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | |
| 4-1 | 山腹 | | | | | | | 400 | 400 | 400 | S-22° - W | (210) | 175 | 160 | | | |
| | 2 | | | | | | | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | | | |
| | 3 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | |
| 5-1 | 山腹 | | | | | | | 1500 | 1500 | 1500 | 左袖 | 270 | 175 | (120) | | | |
| | 2 | | | | | | | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | | | |
| | 3 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | |
| 6-1 | 山腹 | | | | | | | 1500 | 1500 | 1500 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | | | |
| | 2 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | |
| | 3 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | |
| | 4 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | |
| 7-1 | 山腹 | | | | | | | 1500 | 1500 | 1500 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | 横穴式石室 | | | |
| | 2 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | |
| | 3 | | | | | | | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | 右袖 | | | |

| 支群番号 | 立地 | 墳形 | 墳丘直径 | 墳丘高さ | 内室構造 | 石室形態 | 開口方向 | 玄室 | | | | 横道 | | | 備考 |
|-----------|----|----|------|------|--------|------|---------|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|----------------------------------|
| | | | | | | | | 長さ | 幅 | 高さ | 長さ | 幅 | 高さ | | |
| 墳丘半壇、石室完存 | | | | | | | | | | | | | | | |
| -13 | | | | | 横穴式石室 | | | | | | | | | | |
| 14-1 | 山腹 | " | | | 横穴式石室 | " | 右袖 | 南 | 340 | 210 | 190 | 480 | 140 | 140 | 石室完存 巨石露出 未計測 |
| 2 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 天井石露出、更側に削溝有り 石室露出、裏蓋により一部壊れる |
| 3 | " | " | | | 横穴式石室 | " | | | | | | | | | |
| 4 | 山地 | | 1896 | 330 | " | " | | | | | | | | | |
| 5 | 山腹 | | | | | | | | | | | | | | |
| 15-1 | 山腹 | 円 | | 2000 | 横穴式石室 | | | 南 | (340) | 180 | 240 | | | | 玄室天井面破壊 未計測 |
| 2 | " | " | | | 横穴式石室 | " | | | | | | | | | " |
| 3 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | ミニチュアの土塁探査 |
| 4 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 石室完好 |
| 5 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 石室全壊 |
| 6 | 山腹 | 山腹 | | | 横穴式石室? | 右袖 | N-16°-E | 230 | 185 | | | | | | 石室完好 |
| 7 | " | " | | | 横穴式石室? | 無袖 | N-10°-E | 330 | 95 | | | | | | 墳丘石塊有り91年調査 |
| 8 | " | " | | | 横穴式石室? | 右又両袖 | N-48°-W | (90) | (150) | | | | | | 91年調査 |
| 9 | 山頂 | 円 | 1500 | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 山腹 | | 1000 | | | | | | | | | | | | |
| 11 | " | " | | | | | | | | | | | | | |
| 16-1 | 山腹 | | | | 横穴式石室 | | | | | | | | | | |
| 2 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 墳丘石室全壊、石材散乱 |
| 3 | " | 円? | | | " | " | | | | | | | | | 墳丘石室半壊 |
| 4 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 石材散乱 |
| 5 | " | 円? | | | " | " | | | | | | | | | 墳丘石室半壊 |
| 6 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | " |
| 7 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 墳丘全壊、石材露出 |
| 8 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 石材露出 |
| 9 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 墳丘半壊、石室半壊? |
| 10 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | 墳丘全壊、石室完存? |
| 11 | " | " | | | " | " | | | | | | | | | |

| 支群番号 | 立地 | 墳形 | 墳丘直徑 | 墳丘高 | 内部構造 | 石室形態 | 開口方向 | 普通 | | | | 参考 |
|------|----|----|------|-----|-------|------|------|------|-----|-----|----|----------------------|
| | | | | | | | | 長さ | 幅 | 高さ | 長さ | |
| -2 | 山陵 | | 1240 | 267 | 横穴式石室 | | | 255上 | 142 | 116 | | 天井石抜き取り 石室露出、通道削除 |
| 3 | 山腹 | " | 1320 | 504 | " | | | | | | | 小石室？ |
| 4 | " | | 720 | 230 | " | | | | | | | " |
| 34-1 | 山頂 | | 650 | 42 | 横穴式石室 | 小石室？ | | | | | | 勾體状孔、小石室？ |
| 2 | " | | 550 | 59 | " | " | | | | | | 小石室？ |
| 3 | " | | 560 | 51 | " | " | | | | | | " |
| 4 | 山陵 | | 1270 | 184 | | | | | | | | 埴生完存 |
| 5 | " | | 530 | 167 | 横穴式石室 | 無袖 | | | | | | " |
| 6 | " | | 800 | 161 | " | | | | | | | " |
| 7 | " | | 850 | 187 | | | | | | | | " |
| 8 | 山腹 | 円 | 1130 | 310 | 横穴式石室 | | | | | | | 小石室？、完存 |
| 9 | " | | 950 | 315 | " | | | | | | | 天井石露出 |
| 10 | " | | 840 | 332 | " | | | | | | | " |
| 11 | " | | 1040 | 271 | " | | | | | | | 小體状孔、周囲有り |
| 12 | 山腹 | 円？ | 740 | 239 | " | | | | | | | 完存 |
| 13 | 山陵 | | 700 | 97 | | | | | | | | 石室石露出 |
| 14 | " | | 1060 | 143 | | | | | | | | 天井石露出 |
| 15 | " | | | | | | | | | | | 石室完存 |
| 16 | " | 円 | 1270 | 417 | 横穴式石室 | 無袖 | | 530 | 163 | 136 | | 石室光存 |
| 17 | " | 円 | 1410 | 475 | " | | | | | | | 通道天井石始段 |
| 18 | " | | 1210 | 379 | " | | | 362 | 172 | 229 | | 石室完存 |
| 19 | 山腹 | | 1440 | 424 | " | 石袖 | | 268 | 124 | 124 | | " |
| 20 | " | | 710 | 258 | " | 右又無袖 | | | | | | 完存 |
| 21 | 山陵 | | 950 | 264 | " | 両袖 | | 236 | 163 | 175 | | 石室完存 |
| 22 | " | | 1070 | 438 | " | | | | | | | 完存 |
| 23 | 山陵 | | 750 | 343 | " | | | | | | | 天井石露出 |
| 24 | 山腹 | | 740 | 146 | " | | | | | | | 石室露出 |
| 25 | " | | 1100 | 218 | " | | | | | | | 通道天井石削除 |
| 26 | " | | 1130 | 222 | " | | | | | | | 両壁露出 |
| 27 | " | | 1090 | 314 | " | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|----|----|------|-----|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|--------------|
| 28 | " | 円 | 920 | 179 | " | 圓池 | 333 | 195 | 220 | 340 | 119 | 160 | 石室露出 石室光仔 | |
| 29 | " | 山腹 | 1320 | 239 | " | 無池 | 430 | 100 | 110 | 190 | 383 | 112 | 96 | " |
| 30 | " | 山腹 | 1090 | 272 | " | 無池 | 174 | 190 | 200 | 200 | 115 | 121 | 完仔 | " |
| 31 | " | 山腹 | 1580 | 390 | " | 兩袖 | 322 | 180 | 190 | 190 | 320 | 110 | 121 | 石室完全 石室光仔 |
| 32 | " | 山腹 | 1500 | 410 | " | " | 373 | 168 | 162 | 242 | 112 | 100 | 石材抜取り 完仔 | " |
| 33 | " | 山腹 | 1600 | 374 | " | 兩袖 | 320 | 178 | 188 | 320 | 110 | 121 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 34 | " | 円 | 1170 | 439 | " | " | 373 | 168 | 162 | 242 | 112 | 100 | 石材抜取り 完仔 | " |
| 35 | " | 山腹 | 730 | 146 | " | 小石室 | 348 | 213 | 251 | 495 | 129 | 120 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 36 | 方? | 山腹 | 1400 | 467 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 37 | " | 山腹 | 950 | 318 | " | " | 348 | 213 | 251 | 495 | 129 | 120 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 38 | 山腹 | 方? | 1280 | 428 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 39 | " | 山腹 | 670 | 255 | " | " | 348 | 213 | 251 | 495 | 129 | 120 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 40 | " | 円 | 1390 | 379 | " | 圓池 | 348 | 213 | 251 | 495 | 129 | 120 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 41 | " | 山腹 | 2110 | 588 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 42 | " | 山腹 | 690 | 156 | " | 兩袖 | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 43 | " | 山腹 | 1280 | 446 | " | 兩袖 | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 44 | " | 山腹 | 800 | 154 | " | 小石室? | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 45 | " | 山腹 | 960 | 248 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 46 | " | 山腹 | 1590 | 470 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 35-1 | 山腹 | 円 | 800 | 190 | 横穴式石室 | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 2 | 山腹 | 円 | 910 | 323 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 3 | 山腹 | 円 | 960 | 220 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 4 | " | 山腹 | 1030 | 254 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 5 | 山腹 | 円 | 690 | 132 | 木棺直葬? | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 6 | 山腹 | 円 | 630 | 44 | 橫穴式石室 | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 7 | " | 山腹 | 960 | 255 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 8 | 山腹 | 円 | 960 | 232 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 9 | 山腹 | 円 | 1480 | 406 | " | 無池 | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 10 | " | 山腹 | 1180 | 243 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 11 | 山腹 | 円 | 980 | 145 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 12 | 山腹 | 円 | 1150 | 347 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 13 | " | 山腹 | 1080 | 255 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 14 | " | 山腹 | 830 | 233 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |
| 15 | " | 山腹 | 1450 | 290 | " | " | 355 | 202 | 230 | 380 | 124 | 103 | 石室完全 石室光仔 | " |

| 支群番号 | 立地 | 境形 | 墳丘直徑 | 墳丘高 | 内部構造 | 石室形態 | 開口方向 | 墓 室 | | | | 溝 道 | | 備 考 |
|------|----|----|------|------|------|-------|------|-----|---|---|---|-----|---|------------|
| | | | | | | | | 長 | 寬 | 高 | さ | 幅 | 高 | |
| 36-1 | 山腹 | | | 1000 | 236 | 橫穴式石室 | | | | | | | | 穴井 |
| 2 | " | | | 960 | 200 | | | | | | | | | 天井石露出 |
| 3 | " | | | 900 | 196 | " | | | | | | | | " |
| 4 | " | | | 650 | 227 | " | | | | | | | | " |
| 5 | " | | | 590 | 192 | " | | | | | | | | 石室接合痕り |
| 6 | " | | | 1010 | 205 | 橫穴式石室 | 袖 | | | | | | | 石室完全 |
| 7 | " | | | 990 | 250 | | | | | | | | | 天井石露出 |
| 8 | " | | | 910 | 251 | " | | | | | | | | " |
| 9 | " | | | 970 | 197 | " | | | | | | | | 天井崩壊 |
| 10 | " | | | 1120 | 263 | " | | | | | | | | 穴井 |
| 11 | " | | | 700 | 173 | | | | | | | | | 石室崩壊 |
| 12 | " | | | 530 | 297 | 橫穴式石室 | | | | | | | | 天井石露出 |
| 13 | " | | | 1030 | 270 | " | | | | | | | | " |
| 14 | " | | | 1170 | 193 | " | | | | | | | | 穴井、天井石一部露出 |
| 15 | " | | | 840 | 169 | " | | | | | | | | |
| 37-1 | 山腹 | | | 1270 | 165 | 橫穴式石室 | | | | | | | | 天井石陥れ數り |
| 2 | " | | | 1020 | 197 | " | | | | | | | | 天井崩壊 |
| 3 | 山腹 | | | 1220 | 228 | | | | | | | | | 穴井 |
| 4 | " | | | 1150 | 314 | | | | | | | | | " |
| 5 | " | | | 1210 | 162 | 橫穴式石室 | 袖 | | | | | | | 天井石露出 |
| 6 | " | | | 1190 | 386 | " | | | | | | | | 穴井 |
| 7 | " | | | 750 | 82 | " | | | | | | | | 天井石露出 |
| 8 | " | | | 760 | 254 | " | | | | | | | | 穴井 |
| 9 | " | | | 1570 | 583 | " | | | | | | | | 側壁別離 |
| 38-1 | 山腹 | | | 1060 | 120 | | | | | | | | | 穴井 |
| 39-1 | 山腹 | | | 1320 | 122 | 橫穴式石室 | | | | | | | | |
| 2 | " | | | 1630 | 418 | " | | | | | | | | " |
| 3 | " | | | 1000 | 198 | " | | | | | | | | 石室崩壊 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|----|--|--|------|-----|-------|--|--|--|--|--|--|--------|
| | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | " | | | 710 | 139 | " | | | | | | | |
| 40-1 | 山腹 | | | 1130 | 312 | 楓穴式石室 | | | | | | | |
| 2 | 山陵 | | | 1080 | 312 | " | | | | | | | |
| 3 | " | | | 1070 | 232 | " | | | | | | | |
| 4 | " | | | 1500 | 289 | " | | | | | | | |
| 41-1 | 山腹 | | | 790 | 259 | 楓穴式石室 | | | | | | | |
| 42-1 | 山腹 | | | 770 | 265 | | | | | | | | |
| 2 | | | | 770 | 253 | | | | | | | | |
| 3 | | | | 970 | 305 | | | | | | | | |
| 4 | | | | 940 | 341 | 楓穴式石室 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 天井石露出 |
| | | | | | | | | | | | | | 天井石露出 |
| | | | | | | | | | | | | | 完存 |
| | | | | | | | | | | | | | " |
| | | | | | | | | | | | | | 天井石露出 |
| | | | | | | | | | | | | | 天井石露出 |
| | | | | | | | | | | | | | 石材抜き取り |

図 版

図版一 分布調査区割図

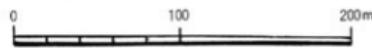


図版二
三区分布図

平野・大塚古墳群



3区分布図

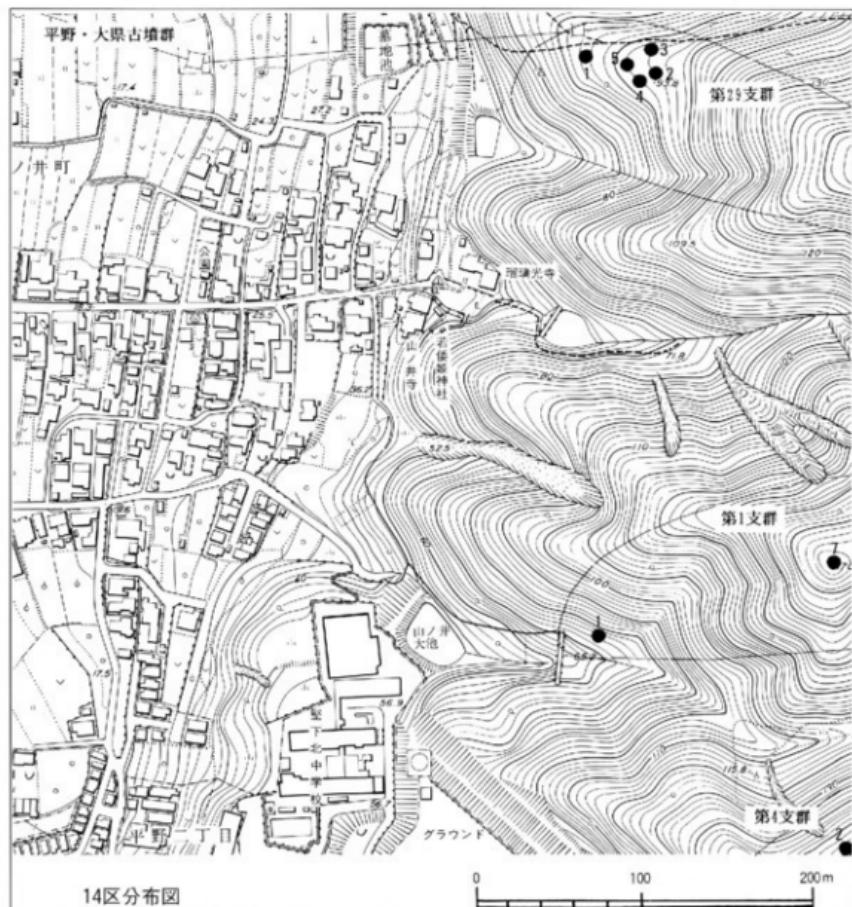


西側枝尾根遠望



中央枝尾根遠望

図版三 十四区分布図

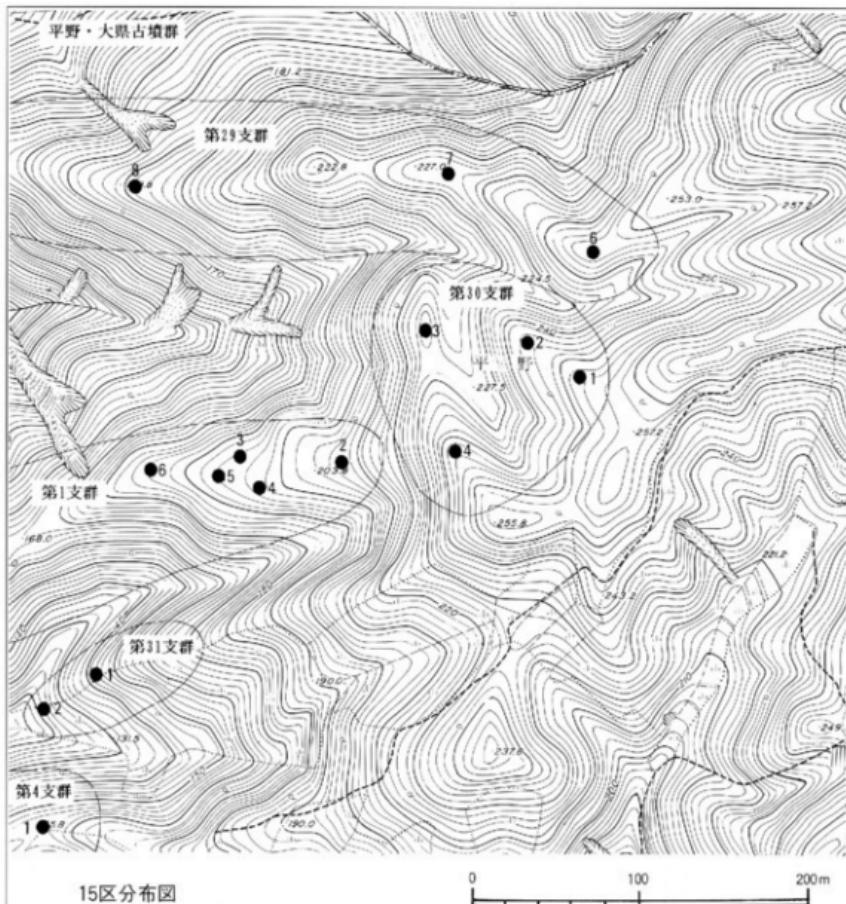


草刈作業中



草刈作業中

図版四
十五区分布図

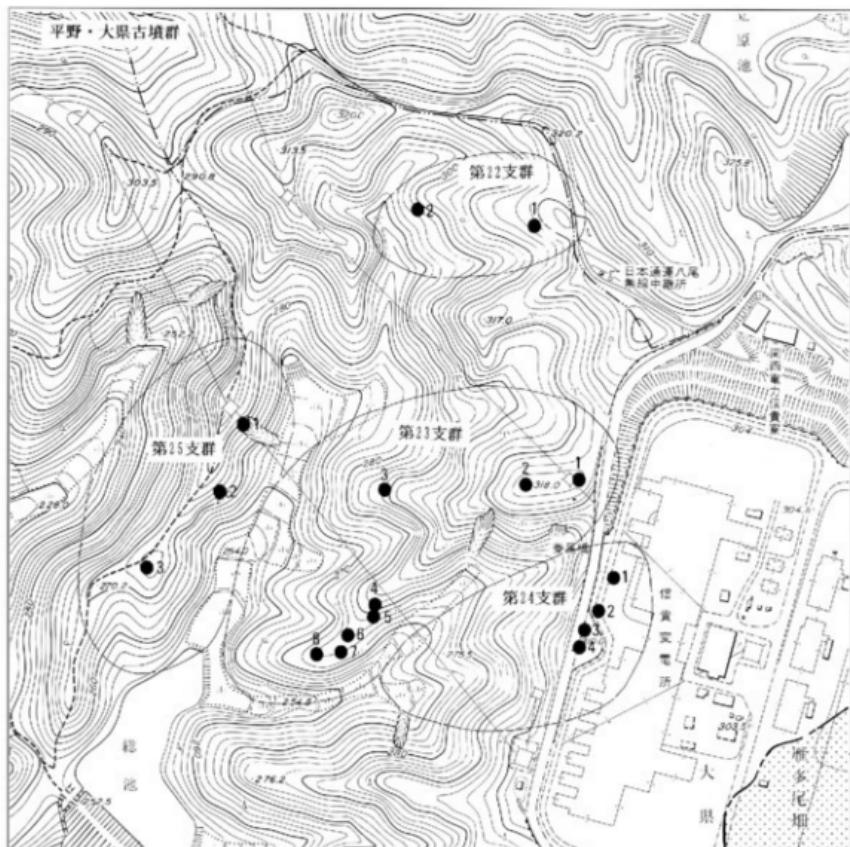


草刈後



草刈後

図版五 十六区分布図

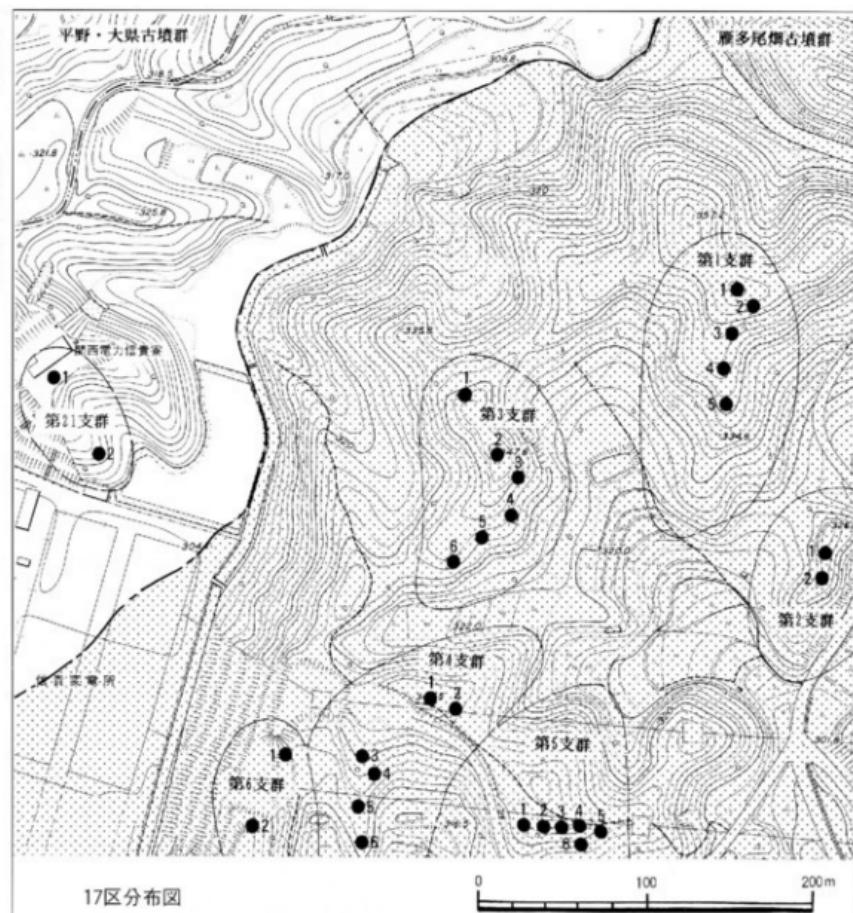


第34支群 8号墳



同 17号墳

図版六 十七区分布図

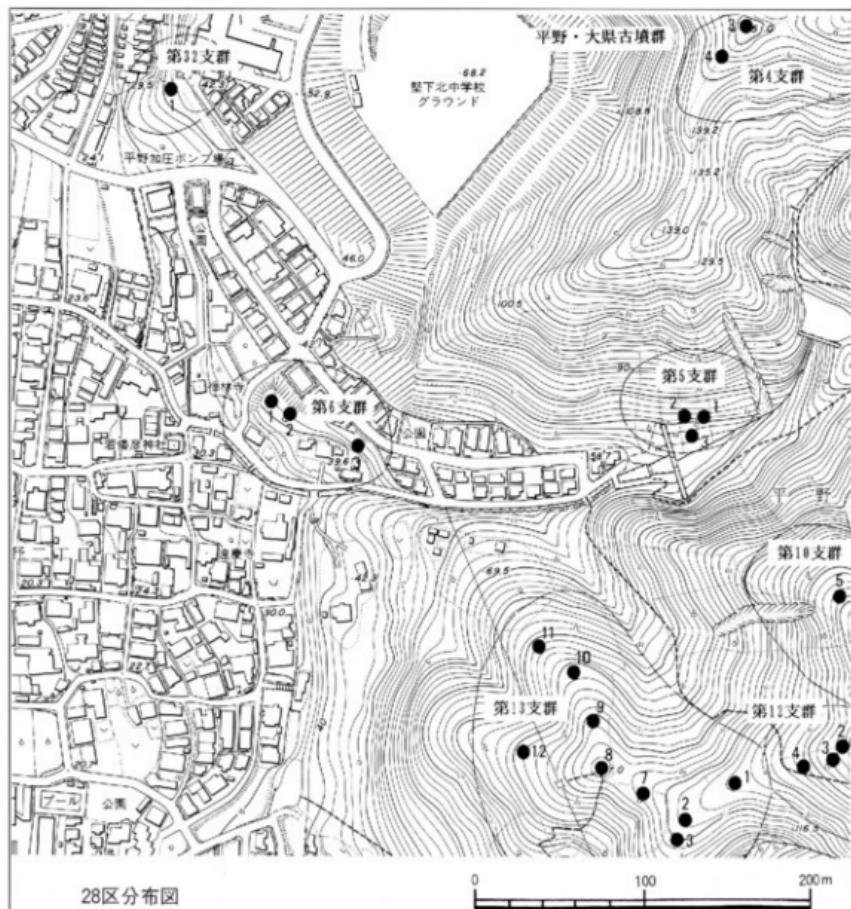


第34支群18号墳



同 19号墳

図版七 二十八区分布図

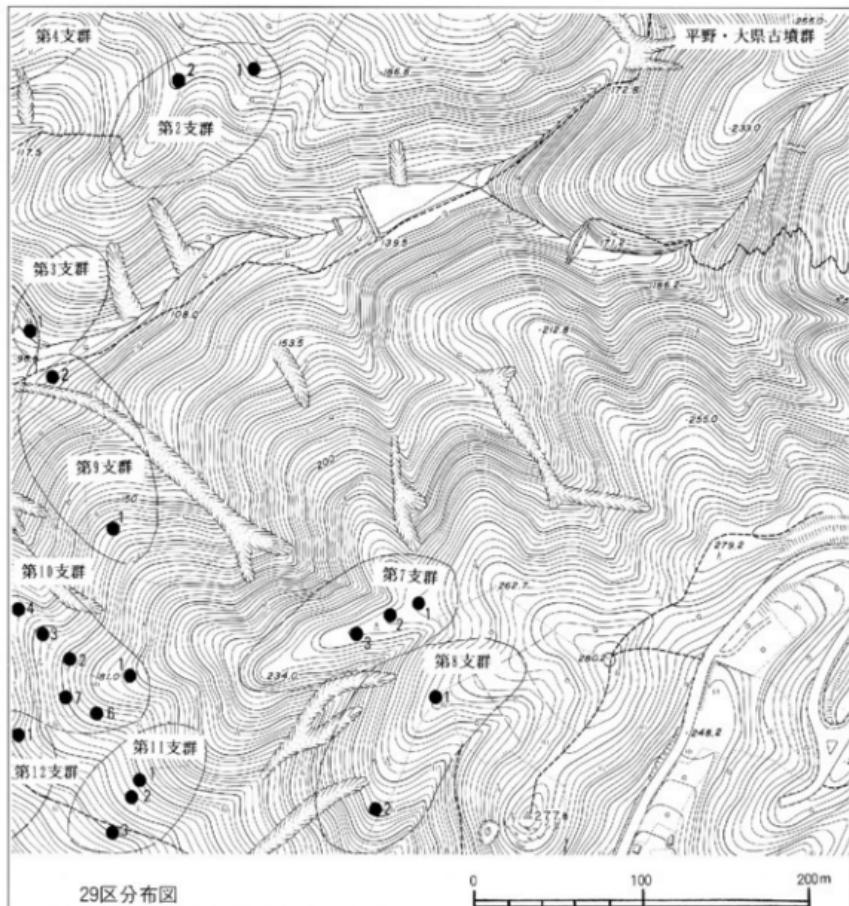


第34支群20号墳



同 22号墳

図版八 二十九区分布図



図版九 三十区分布図



30区分布図

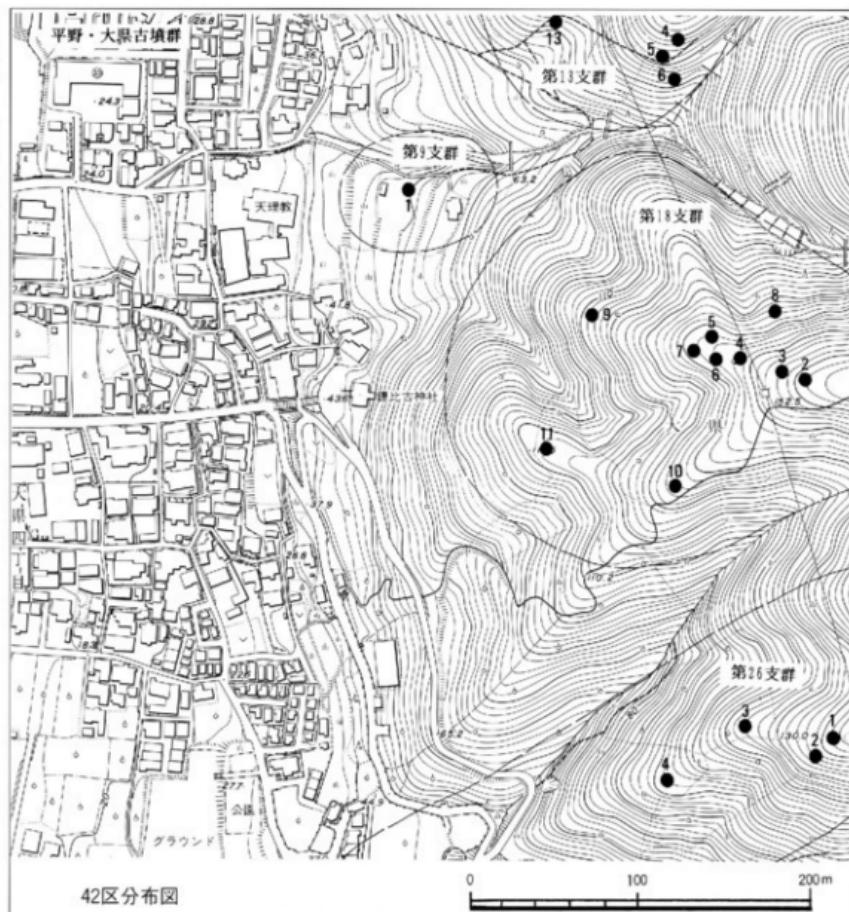


第34支群30、32、33号墳



同 32号墳

図版十 四十二区分布図



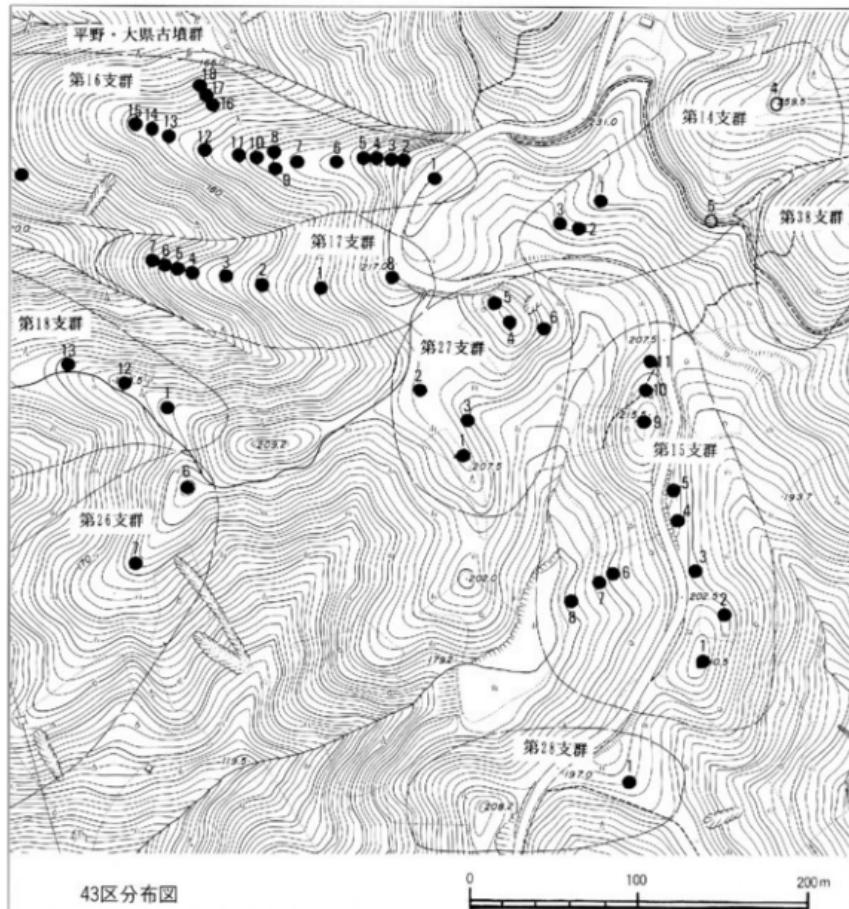
42区分布図



第34支群38号墳



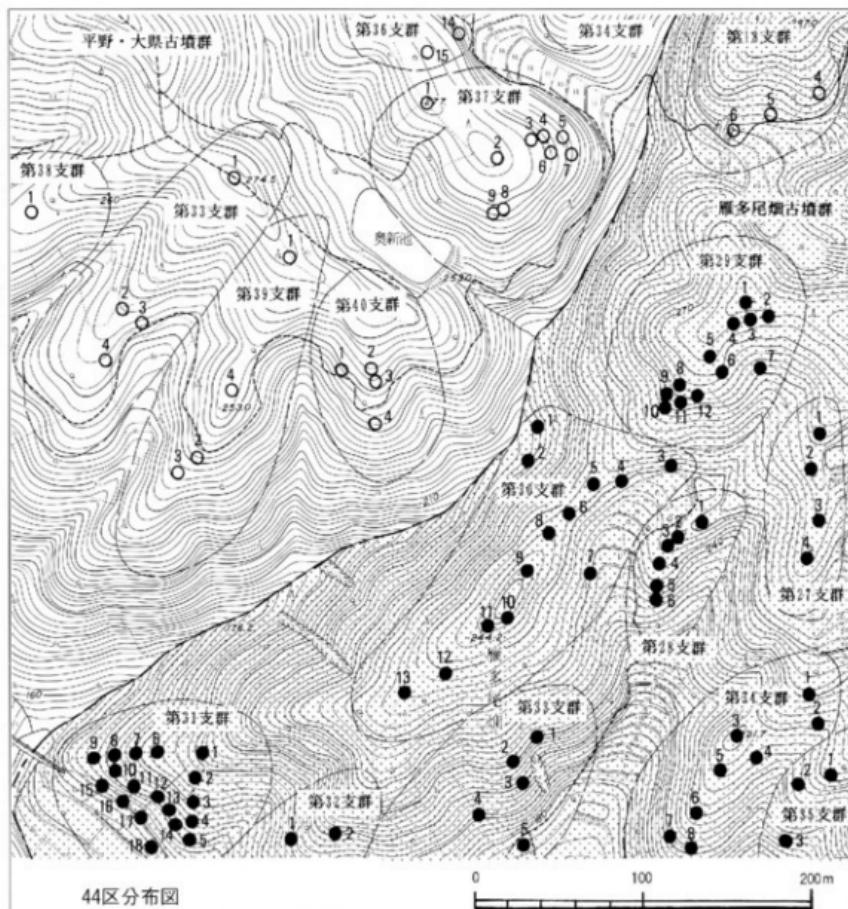
同 42号墳



第37支群 1号墳



同 2号墳

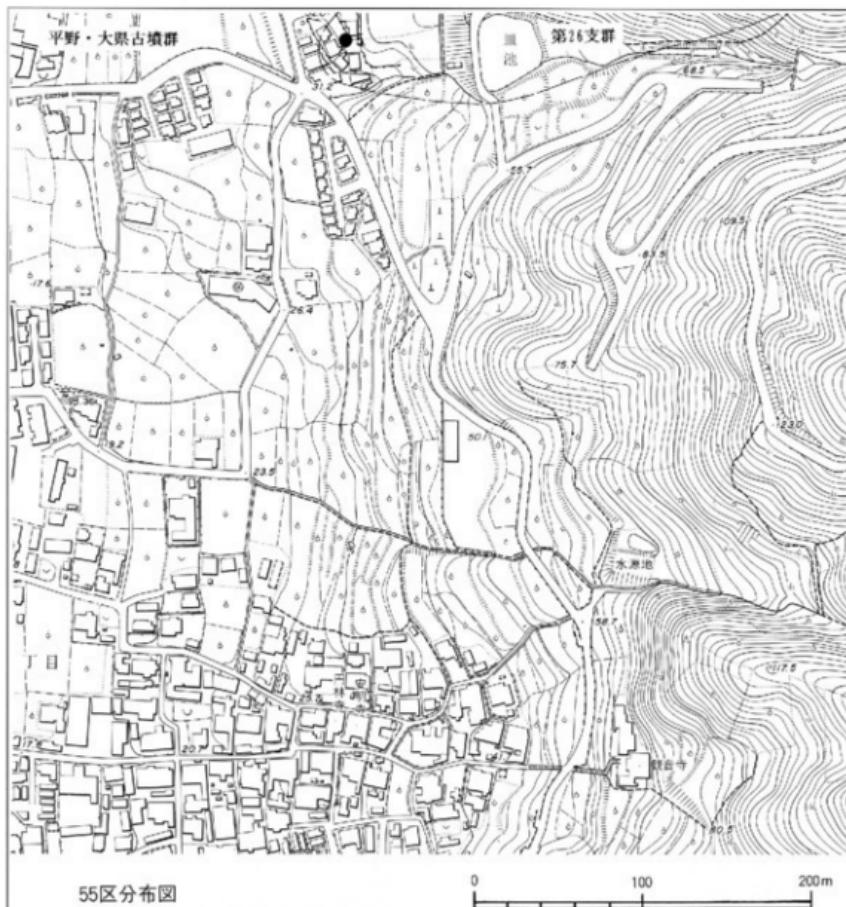


第37支群 5号填



同 6 号墳

図版十三
五十五区分布図

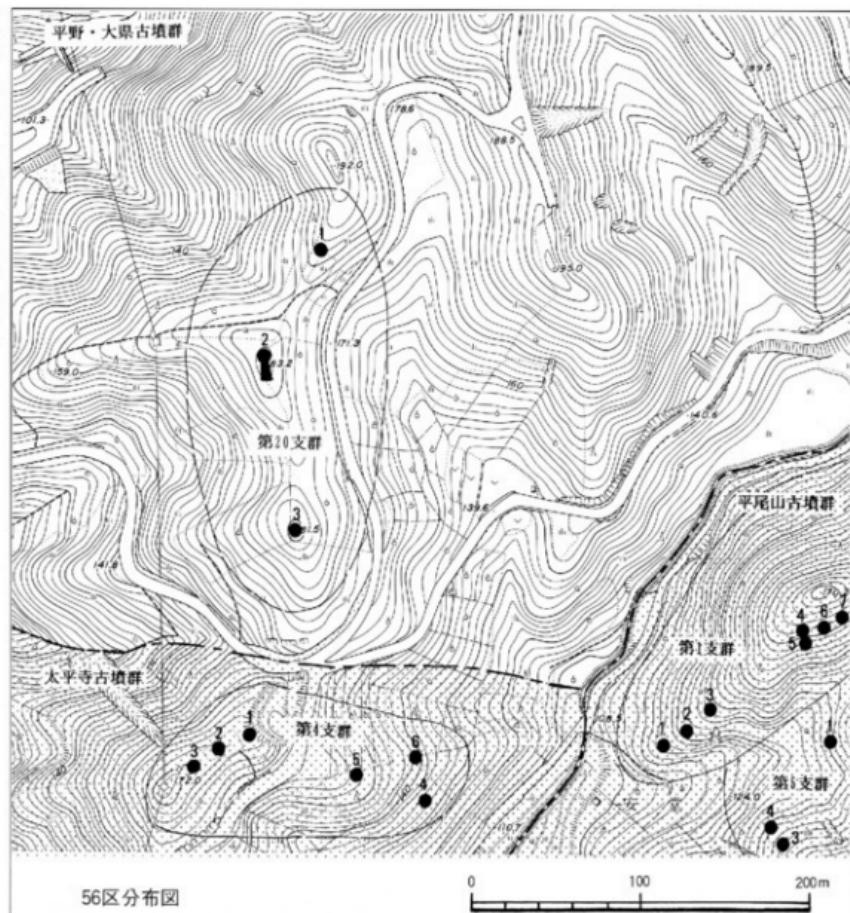


第39支群 2号墳

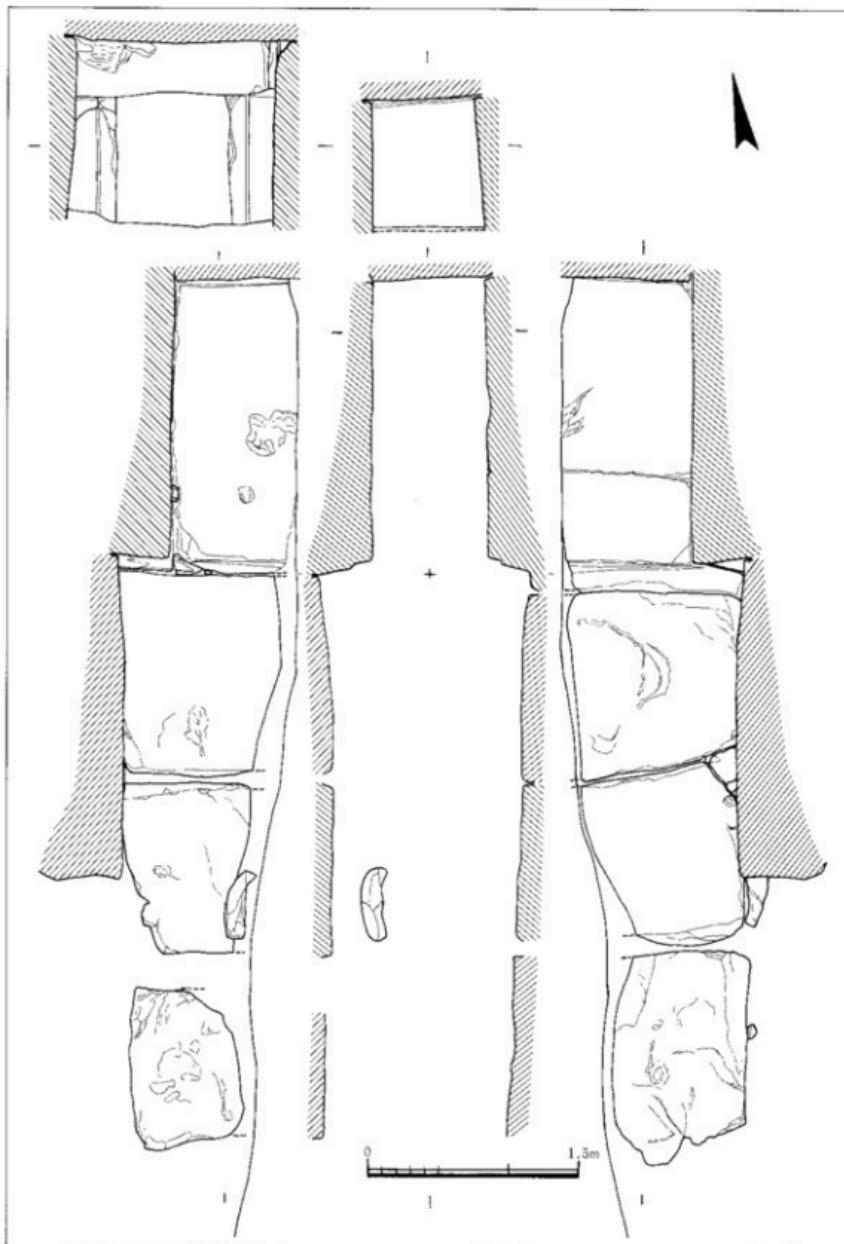


同 3号墳

図版十四 五十六区分布図



図版十五 第二十四支群八号墳 横口式石槨実測図



図版十六 東山地区の古墳群の尾根と支群

